

SS-MIX2規格の診療情報を中心とした 生涯保健情報統合基盤の構築と利活用に関する研究

平成30年2月15日

日本医師会ORCA管理機構

伊藤 伸昭



日医 I T 化宣言2016

ORCAプロジェクト推進をメインとした日医 I T 化宣言
(H.13年) に代わり、今後の日医の医療分野のIT化 における
取り組みの指針として、H.28年6月に公表

- 日本医師会は、安全なネットワークを構築するとともに、個人のプライバシーを守ります。
- 日本医師会は、医療の質の向上と安全の確保をITで支えます。
- 日本医師会は、国民皆保険をITで支えます。
- 日本医師会は、地域医療連携・多職種連携をITで支えます。
- 日本医師会は、電子化された医療情報を電子認証技術で 守ります。

公益社団法人 日本医師会より引用

日本医師会は、
医療の質の向上と安全の確保を
ITで支えます

【主な内容】

- 適切に収集した医療情報を研究・分析して、医療の質の向上及び患者の安全確保に努める。

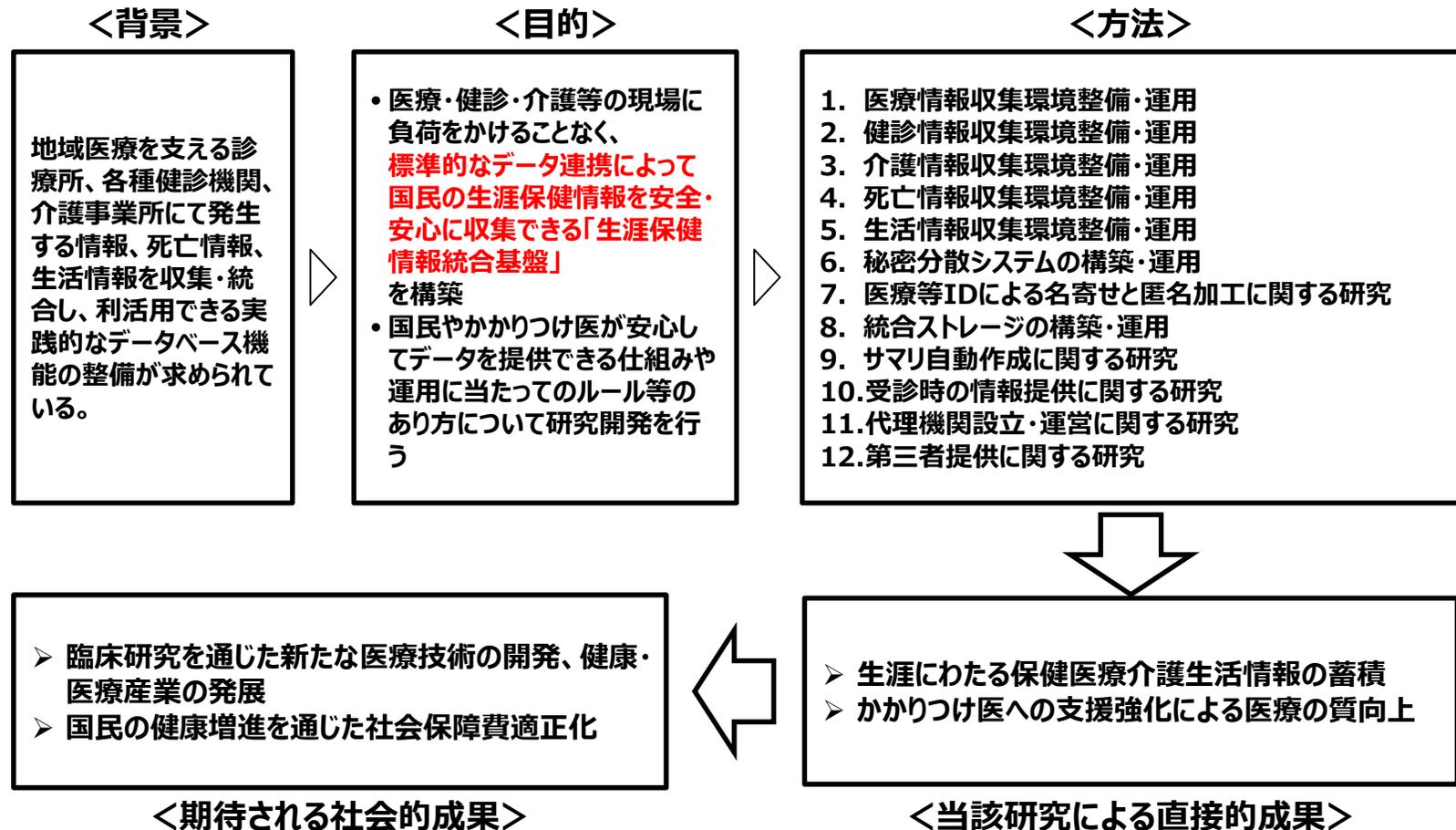
公益社団法人 日本医師会より引用

はじめに～日本医師会が本研究を行う社会的意義～

- かかりつけ医を通じて、国民の生涯保健情報を安心・安全に統合管理
- かかりつけ医を通じて、国民全体にきめ細かく質の高い医療をリアルタイムに提供
- 全国に普及しているORCAを基盤とした潜在的な医療情報収集ネットワークの活用強化
- SS-MIX2を活用して、医療情報の標準化を推進
- 地域医療連携・健診・介護・生活情報（歯科・調剤含む）のデータ収集の推進、データ統合化と活用の在り方を研究
- 医療等ID、匿名加工、名寄せ、同意のあり方、第三者提供あり方など、代理機関の情報管理に関して、基本ポリシー作成と活用への国民の合意形成を促進

本研究開発の全体像（概要版）

国民の生涯保健情報を安全・安心に医療・健診・介護等の現場に負荷をかけることなく収集できる標準的なデータ連携による「生涯保健情報統合基盤」を構築し、「認定事業者」、「医療等ID」の動向を踏まえながら、国民やかかりつけ医が安心してデータを提供できる仕組みや運用に当たってのルール等のあり方について研究開発を行う

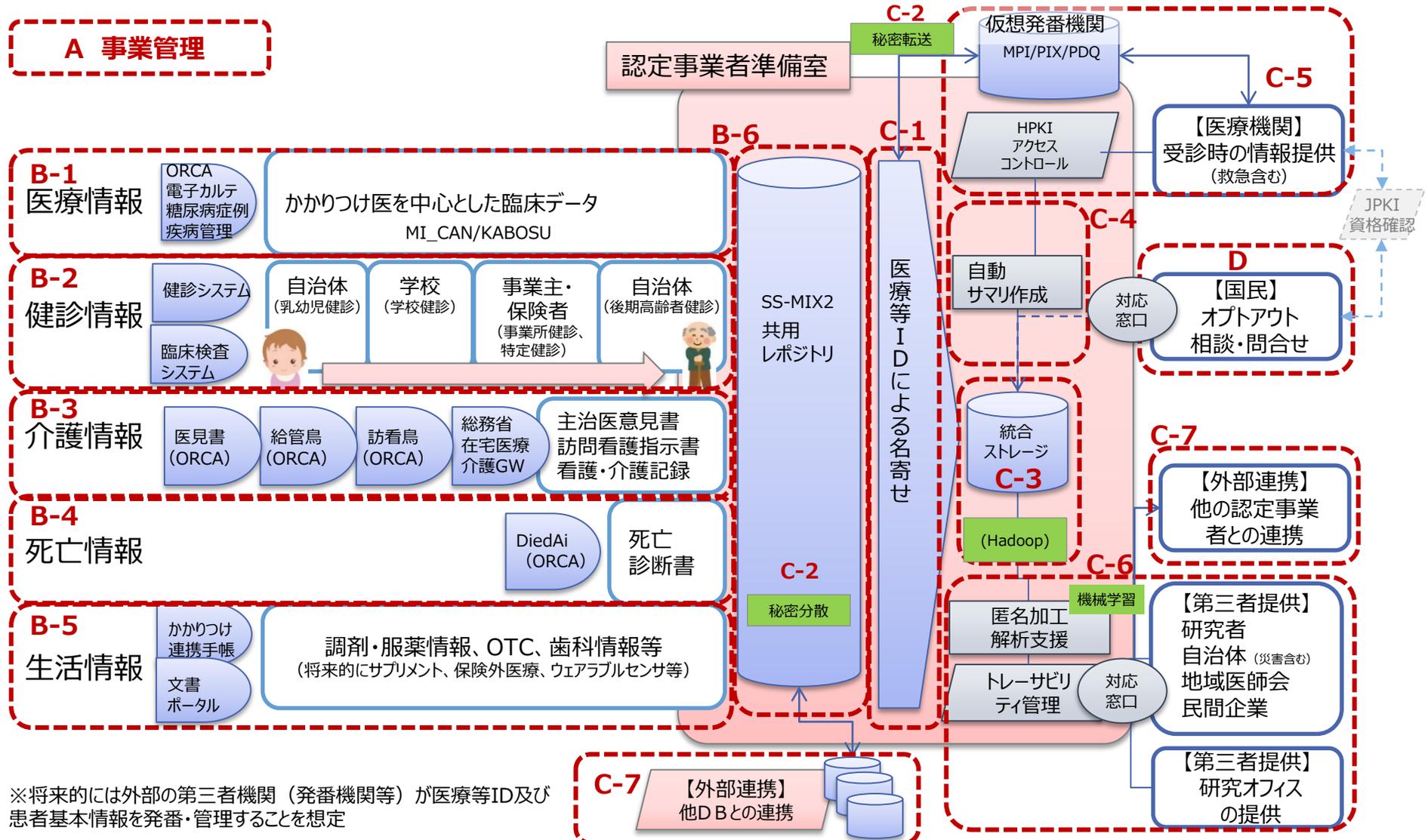


公的医療ビッグデータの種類

		医科レセプト	特定健診・保健指導	介護レセプト	診療録	その他臨床データ
病院	国保	副作用DB (MID-NET)	KDB		副作用DB (MID-NET)	NCD等
	社保					
診療所	国保		KDB		(日医)	
	社保		NDB			

※その他DPCなどがある

生涯保健情報統合基盤のサブシステム構成



※将来的には外部の第三者機関（発番機関等）が医療等ID及び患者基本情報を発番・管理することを想定

平成28年度 日本医療研究開発機構 臨床研究等ICT基盤構築研究事業
「SS-MIX2規格の診療情報を中心とした診療所からの大規模診療データの収集と利活用に関する研究」(H28-30)

収集予定データ

データ種別	主な収集データ（文書、データ内容等）
B-1 医療情報	<p>【医療機関全般からの収集情報】 医療機関の情報、患者の情報、保険の情報、病名の情報、日付の情報、診療科と医師の情報、診療内容の情報、投薬に関する情報、備考情報</p> <p>【糖尿病患者の情報収集】 管理情報、日付情報、患者基本情報、糖尿病関連情報、他院情報、指導情報、糖尿病関連病歴、患者転帰情報、その他属性情報、検査情報、注射情報、処方情報、診療情報</p>
B-2 健診情報	<p>【収集する健診情報】 妊婦健診調査（歯科含む）、乳幼児健診調査（歯科含む）、就学時健康診断、学校健診（学校心臓健診、学校腎臓病健診・学校糖尿病、小児生活習慣病予防健診含む）、定期健康診断（特定業務従業者の健康診断含む）、特定健診・特定保健指導（一般健康診査等含む）、健康増進事業、後期高齢者健康診査</p> <p>【収集するデータ項目】上記における問診・検査結果・診察内容・所見 等</p>
B-3 介護情報	<p>【標準連携項目（メインのサブシステムによる収集）】基本情報、ケアサービス計画、評価内容、記録</p> <p>【標準連携項目以外（別システムでの収集）】主治医意見書、訪問看護指示書、特別訪問看護指示書、精神訪問看護指示書、訪問看護計画書、特別訪問看護計画書Ⅰ・Ⅱ、訪問看護報告書、各種介護記録</p>
B-4 死亡情報	死亡診断（死体検案）書、出生証明書、死産証書
B-5 生活情報	<p>（かかりつけ連携手帳）利用者基本情報、医療機関、介護事業所情報、保険情報、検査情報、治療情報、介護事業所利用情報、日常活動状況</p> <p>【検討中】歯科診療情報・歯科レセ情報（B-1での収集となる可能性）、調剤レセ情報（B-1での収集となる可能性）、OTC市販薬情報</p>

匿名加工医療情報を提供するための課題

- 国民への周知・合意形成
- 匿名加工医療情報の共通運用方針
- (丁寧な) オプトアウトのあり方
- 名寄せに関する医療等 I D 等の実現方法
- 匿名加工医療情報の取扱いに関する監査・認証
- 認定事業者間の連携方法
- サイバー防災訓練
- 第三者提供時の審査ならびにトレーサビリティ
- 医療等分野専用ネットワークの必要性

日本医師会は、
安全なネットワークを構築するとともに、
個人のプライバシーを守ります。

【主な内容】

- マイナンバー制度のインフラを活用した医療等ID制度を確立させる。
- 医療等IDを活用して、国民・患者が安心できる地域医療連携を実現する。
- 医療機関が安心・安全・安価に地域医療連携に活用できる医療等分野専用ネットワークの構築を目指す。

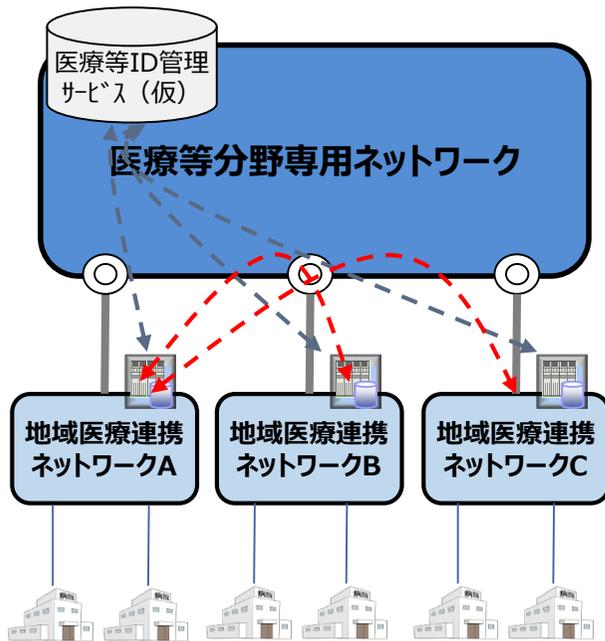
公益社団法人 日本医師会より引用

「医療等分野専用ネットワーク」の利用シーン例

- 「医療等分野専用ネットワーク」では、例えば、以下の3つの利用シーンを同時に実現することを目指す。

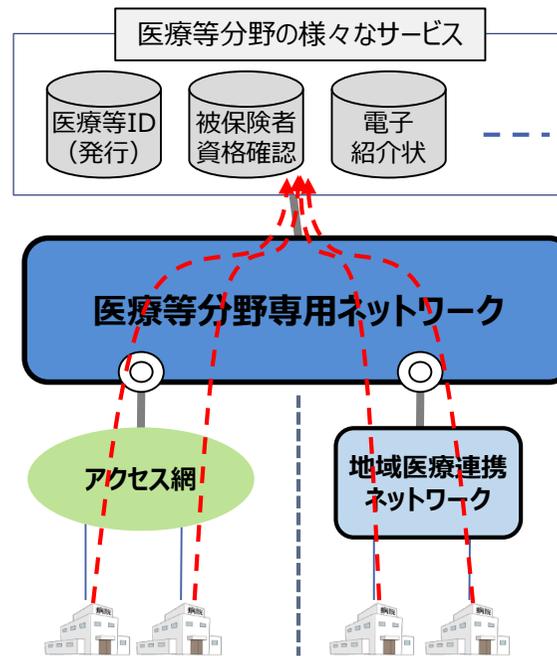
① 地域連携ネットワーク間の相互接続

地域医療連携ネットワーク間を相互接続し、地域を跨いだ情報の連携を行う。



② 医療等分野のサービス利用

許可された医療機関等が医療等分野の様々なサービスを共通利用する。



(1) 医療等分野専用ネットワーク接続用アクセス網より接続

(2) 既存ネットワークより接続

③ 用途別VPN構成

任意の医療機関間で用途別のVPNを構成し、拠点間・グループ間通信を行う。

